



小田原男声合唱团

第39回定期演奏会



2010.11.6 (土) 午後2:30 開場 午後3:00 開演

小田原市民会館大ホール

主催
後援

小田原男声合唱团

小田原市教育委員会

日本男声合唱協会 (JAMCA)

神奈川男声合唱協会 (KAMCA)

湘南合唱連盟

小田原地区合唱連盟

小田原音楽連盟

ごあいさつ



小田原男声合唱団

団長 一色 義信

本日はご多用の折にもかかわりませず、小田原男声合唱団第39回定期演奏会に足をお運びいただき、団員一同心から御礼申し上げます。

私たちは、本年4月8日から13日までの6日間、ウィーン、バルト3国に続く3度目の海外演奏旅行となります。アメリカ演奏旅行に外山浩爾先生ともに行って参りました。そのご報告を持ってご挨拶に代えさせていただきます。

最初のコンサートは、成田よりサンフランシスコ到着の翌日、4月9日にサンフランシスコのハーブストシアターで開催されました。サンフランシスコさくら祭実行委員会主催の「日米合唱コンサート」でした。オダダンは、昨年の定演で演奏した鈴木憲夫作曲「ほほえみ」、からたちの花、日本民謡などの愛曲集の2ステージを披露いたしました。そして千代田レディーズ・アンサンブル、外山浩爾先生が指導をしておられる葛飾区民声合唱団、世田谷区民声合唱団、板橋区混声合唱団のメンバーの方々も加わっての日本合同ステージでの信長貴富編曲「赤い鳥小鳥」の演奏、フィナーレは北カリフォルニア日本合唱連盟、南カリフォルニア日系合唱連盟の皆さんと出演者全員による日米合同ステージで幕を閉じました。伝統あるハーブストシアターに詰めかけた満員の聴衆の方々から頂いた温かい拍手は今でも耳に残っております。また米国でこれだけ多くの日本人、日系人による合唱団が地道な活動を続けていることに感銘を受けるとともに、わずかな時間ではありますが彼らとの交流は楽しいひとときでした。特に北カリフォルニア日本合唱連盟会長の賀川正人さん、L A第九を歌う会代表の棚野泰全さん、T 2のS氏と演奏会后、最後はホテルの一室で飲み明かしたことは、一生忘れ得ぬ思い出となりました。賀川さん、棚野さんお疲れ様でした。そして大変お世話になりました。

10日朝、空路サンフランシスコからサンディエゴへ移動、市内観光の後、次の演奏地小田原市の姉妹都市チュラビスタ市に入りました。チュラビスタ市はサンディエゴ市から車で約10分、メキシコ国境にもほど近い人口約25万人の温暖な都市です。我々の宿泊するエル・プリメロホテルでは、シェル・コックス市長、テリー・トーマス国際親善委員長、テレサ・ラッセル サウス・ウエスタ・カレッジ (SWC) 教授らの出迎えを受け、同ホテルの中庭で盛大な歓迎レセプションを開催していただきました。翌日11日、SWCのコンサートホールで開催された姉妹都市合唱コンサートでは、ラッセル教授指揮のSWCコンサート・クワイア (市民合唱団) とSWCチェンバー・シンガーズ (学生の合唱団) との共演でした。歌って踊れる彼らのノリノリの演奏は、オダダンのオジサンたちにはとても真似のできるものではありません。オダダンも箱根八里、酒匂川そして日本民謡などを演奏、圧巻はメキシコの曲「マニャニータ」のスペイン語での演奏でした。先にも申し上げたとおり、チュラビスタ市はメキシコ国境近くの都市、彼らの半数以上がラテン系アメリカ人。どうやら我が歌ったスペイン語が通じたようで、拍手喝采、歓声そして指笛があちこちでヒュー、ヒュー！ やはり音楽には国境がありませんでした。演奏終了後、小田原市加藤市長からの親書をコックス市長ほか関係者にお渡ししました。その晩は、ホテルに帰り例の中庭で、ケンタッキーフライドチキン、中華のデリバリー、そしてコンビニで買ってきた大量のビールでの打ち上げ。今回のアメリカ演奏旅行の思い出を夜遅くまで語り合いました。翌朝、チュラビスタではめったに降らない雨の中、エル・プリメロホテルを後にして、L A経由で日付変更線を越えて13日に無事成田に到着いたしました。

この演奏会の応援を快くお引き受けいただきました小田原市加藤憲一市長、チュラビスタ市との連絡調整をとっていただいた小田原市役所文化交流課の皆様はこの紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。

本日は、アメリカでの演奏に負けない、熱い思いで全ステージ演奏致します。また、来年はオダダンは記念すべき創立40周年を迎えます。これからもオダダンに変わらぬ温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

§ プログラム

I 愛の詩集 より

Richard Strauss 作曲
福永陽一郎 編曲

指揮 ピアノ 外山 浩爾
中根 希子

- 1 Morgen!
- 2 Heimliche Aufforderung
- 3 Allerseelen
- 4 Wiegenlied

あした
ひそやかな誘い
万霊節
子守歌

II 愛唱歌 より

- 1 そうらん節
- 2 からたちの花
- 3 大島節
- 4 中国地方の子守唄
- 5 最上川舟唄
- 6 「5つのオアハケーニヤによる憧憬」
より Mañanitas

清水 脩 作曲
山田 耕筈 作曲
伊豆大島 民謡
山田 耕筈 作曲
山形 県 民謡
Neriberto Sanchez 作曲
信長 貴富 編曲

指揮 牛丸 絃一

休 憩

III 男声合唱組曲 中原中也の詩から

- 1 北の海
- 2 汚れつちまつた悲しみに
- 3 間奏曲
- 4 雲雀
- 5 六月の雨
- 6 月の光

指揮 杉山 範雄
中原 中也 作詩
多田 武彦 作曲

IV フランスの詩による男声合唱曲集 月下の一群

- 1 小曲
- 2 輪踊り
- 3 人の言うことを信じるな
- 4 海よ
- 5 秋の歌

指揮 ピアノ 外山 浩爾
中根 希子
堀口 大學 訳詩
南 弘明 作曲

リヒアルト・シュトラウス(1864～1949)は19世紀後半から20世紀前半に活躍したドイツの作曲家である。マーラーと共に後期ロマン派の代表者として、また、20世紀最高の作曲家の一人として高い評価を得ているが、あのワルツ王ヨハン・シュトラウスとは血縁関係にはない。指揮者としてもウイーン国立歌劇場をはじめ一流オーケストラの音楽監督・指揮者を務めて名声を博し、また往年の名指揮者であるカールベームやジョージセルの師ともなった。

ミュンヘン宮廷歌劇場の首席ホルン奏者を務めた父の期待に応え6歳にして作曲をし、モーツァルトに比肩されるような神童ぶりを発揮した。本格的な作品は1876年(12歳)の「祝典行進曲」で、以後1948年(84歳)の「四つの最後の歌」に至るまでの70年余りに渡り、宗教音楽を除くほとんどのジャンルに数多くの作品を残した。中でも「バラの騎士」「エレクトラ」「サロメ」をはじめとするオペラ、「英雄の生涯」「ドンキホーテ」「アルプス交響曲」等の交響詩・標題交響曲、ならびに200曲以上ある歌曲のジャンルに数多くの作品を残し、このように多くの歌曲を残した作曲家は稀であり、歌曲がR.シュトラウスにとって特別のジャンルであったことは疑いない。

今回は名アレンジャー、作曲がR.シュトラウスに名作を残した。シュペルトを除けば、このように多くの歌曲を残した詩集」と名づけた曲集より、特にポピュラーな4曲を取り上げることにした。男声合唱によるR.シュトラウスの歌曲はその色彩豊かな和音や華麗な転調による表現が一層明瞭になり、また劇的な広がりをもせるフレーズの迫力は独唱とは別の魅力を感じさせる作品となっている。

1. Morgen!

〈あしたの1894年〉 H・マッケイ 詩

この曲と次の「ひそやかな誘い」はワインマール歌劇場の指揮者をしていて R.シュトラウスが恋に落ちたソプラノ歌手パウリーネ・デ・アーナと結婚する時、花嫁に捧げた作品(OP27)で代表作の一つに数えられる。清らかで静かな愛が二人の間で育まれていく様が祈りのように描かれている。

2. Heimliche Aufforderung

〈ひそやかな誘い 1894年〉 H・マッケイ 詩

前曲と同じ作品の中の一編でロマンチックなセレナーデである。多くの人がパーティーで集う中、意中の人に目配せし、バラの花咲く夜の庭園に出て口づけを交わすまでが躍動するリズムと巧みな転調で華麗にかつ官能的に描かれている。

[エピソード]

上述のようにR.シュトラウスは恋を成就させたが、夫人となったパウリーネはその激しい性格により恐妻として数々の悪評を残している。しかしながらその叱咤は彼が名作を残したことにプラスに寄与したと見る見方もある。
〔文責 T 2 牛丸 紘一〕

愛唱歌より

今までに私達が愛唱してきた曲の中から、皆様にも馴染み深くよくご存知の歌を中心に、愛唱歌でステージを構成しました。いろいろな機会を通し、今後も他の曲を含め歌い継いで行きたいと思っております。

I. そららん節

北海道の日本海沿岸部の民謡。同地方でニシン漁に従事する「ヤン衆」たちによつて、桝網の中に入ったニシンを、直径三尺(約90センチ)ほどで、柄の長さ一丈(約3メートル)余りの大たも網を3～4人で用いてすくい上げるときの沖揚げ作業の仕事唄として歌われてきたもの。

II. からたちの花

山田耕筈と北原白秋は親交が深く、多くの歌曲を共同作している。そのような関係の中から、1925年(大正14年)にこの歌が発表された。

耕筈は10歳で父が病死し養子にだされ、活版工場で勤労しながら夜学で学んだ。耕筈は自伝において工場であつた目に遭うと、からたちの垣根まで逃げ出して泣いたと述懐している。この歌は耕筈のこの思い出を白秋が詞にしたものである。

III. 大島節

東京都伊豆大島の民謡。明治初期、大島野増(のまし)村(現大島町)の人々が茶もみの労作唄として歌い出したものだといわれ、「野増節」ともよばれていた。この『野増節』に、横浜市あたりで歌われていた茶の火入れ再製作業の労作唄『お茶場節』が取り入れられ現在のメロディとなったと言われている。

3. Allerseelen

〈万霊節 1882～3年〉 H・ギルム 詩

初めて本格的歌曲として世に出した「8つの歌」の中(OP10)の一曲。年一回 死者を追想するカトリックの祭日に亡くなった恋人に語りかけるもの。静かに過去の日々を想いながら歌い始められ、感傷的なフレーズを経て劇的な盛り上がりを見せた後、美しい後奏が甘い余韻を残しながら静かに終わる。

4. Wiegenlied

〈子守歌 1898年〉 R・デーメル 詩

「5つの歌」(OP41)の第一曲目の歌で、繊細で美しいアルペジオのピアノの動きの上にゆたつたと明るく甘美に歌われる子守歌である。わが子に対する愛情に満ち溢れた母の気持ちが穏やかな中に色彩豊かに描かれている。円熟期の代表的な歌曲で女性歌手に人気の高い曲。男声合唱になるとまた味わいのある曲である。

上述のようにR.シュトラウスは恐妻として数々の悪評を残している。しかしながらその叱咤は彼が名作を残したことにプラスに寄与したと見る見方もある。
〔文責 T 2 牛丸 紘一〕

IV. 中国地方の子守唄

岡山県西部井原市出身であったテノール歌手上野耐之が、母が歌っていた当地の子守唄を恩師の耕筈に披露したこととをきっかけに、伴奏を付けて1928年に歌曲に仕上げられた。上野が歌う元唄には、他の子守唄にはない音域の広さとメロロディーラインがあつた。それは上野家が代々タキリウスト教信者であったため、讃美歌などの影響がこの子守唄に西洋風な香りを持たせたためだと考えられる。

V. 最上川舟唄

山形県西村山郡大江町左沢(あてらざわ)の新民謡。1936年(昭和11)9月、NHK仙台局の「最上川を下る」という番組の企画により、左沢の詩人渡辺国俊と同地の民謡家後藤岩太郎とで作られた。柴橋村(現寒河江市)中郷の船頭後藤作太郎から教わった掛け声と左沢の船頭後藤与三郎の母親が覚えていた『松前くずし』という船頭仲間のはやり唄を組み合わせた曲をまとめあげた。

VI. Mañanitas (マニニタ) - 「5つのオアハケニよる鐘」より -
メキシコ合衆国南部、オアハカ州、そこに住まう人々のことをスペイン語でオアハケニニヨ(女性はおアハケニニニヤ)、また、そこに伝わる歌、民謡をオアハケニニヤと呼ぶ。Mañanitas は明け方、早朝を意味する。オアハカの喜びに満ちた美しい朝の情景を歌った曲である。信長貴富氏への編曲委嘱作品。第37回 定期演奏会において清水雅彦氏指揮で初演された。
〔文責 B 2 一色 義信〕

中原中也(明治40～昭和12。現山口市湯田温泉出身)は、現在詩人として多くの愛読者を得ているが、生前出版した詩集『山羊の歌』(昭9.12文圃堂)の一冊のみである。

第2詩集『在りし日の歌』(昭13.4創元社)は、詩集原稿を清書し、友人である文芸評論家小林秀雄に託し、郷里山口へ帰る支度中に結核性脳膜炎を発病、その出版を見ることなく短い生涯を鎌倉養生院で閉じている。

享年30歳。小林秀雄は、その死を「時代病や政治病の患者等が充満しているなかで孤独病を患った死」であったと書いている。

しかし、中原中也の文芸活動は詩人としてのみならず、訳詩集『ランボオ詩集』(昭12.9野田書房)に見られるフランス象徴派の詩の翻訳家として、『天折した富永』(大15雑誌『山繭』19歳)『作家と孤独』(昭11詩誌『歷程』)等多くの散文を残した評論家として、その他、小説、戯曲、童話の作家として、また忘れてはいけないのは歌人としての中也かも知れない。中也は多様性を内在させた詩人であったと言えらる。中也の詩が時代と共感するのである。

詩人高村光太郎は、中也没年の『文学界12月追悼号』の中で「中原君の詩は所謂抒情詩の域を超えた抒情詩といふべきで、それはうたへたり、うたったりする段階から遙に超脱して心や物がそのまま声を発するものであった。詩に於ける彼の領域は人の思ふよりも新しい。言葉は平明であるが、表現せられたものは奥深い。一」と書いている。

I. 北の海

草野心平の詩誌『歷程』(昭10)創刊号の同人の一人として参加。「寒い!」と一緒に掲載。時代の閉塞感を反映し真剣に時代と向き合う姿勢を読む。

II. 汚れちまっちゃった悲しみに

中原中也が中心となった同人誌『白痴群』最終号(昭5)に載った詩。他の同人原稿が集まらず13篇の詩と評論『詩に関する話』の中の1篇。中也23歳。廃刊すべき同人誌と詩人として困難に挑戦する気概を讀んだものだろう。

III. 間奏曲

未刊詩集の一篇で、題が「無諧調スケッチ」から「階調スケッチ」(間奏曲)となった。昭和3年春頃の作。この年は中也の詩「朝の歌」が諸井三郎の作曲、長井維理のバリトン独唱で初演。この時中也21歳。中也自身の鬱屈した気持ちちを歌っている。

IV. 雲雀

『文学界』(昭10)に「春二題」として掲載。長男文也の誕生の喜びが溢れた詩になっている。日記の一節(昭11)「文也も詩が好きになればいいが。二代がかりなら可成りなりなことが出来よう」。親の心情の吐露。

V. 六月の雨

『文学界』(昭10)が主催する第6回文学界賞の選外一席に入選した詩。中也自身、当然文学界賞を受賞できると思った自信作。詩壇に存在を示した。

VI. 月の光

「詩三篇」として「また来ん春……」「月の光その一」「月の光その二」の順で『文学界』(昭12)に掲載。文也の死の悲しみと中也の二人の弟(亜郎、恰三)の死を重ねたのだろう。月夜の庭隅に三人の幻を垣間見たのか。

〔文責 B1 伊東 清邦〕

フランスの詩による男声合唱曲集 月下の一群 堀口 大 學 訳詩 南 弘 明 作曲

堀口大大学の訳詩集は、50種100冊に近いという膨大な数量である。しかもそれらの一篇たりとも、求められて訳されたもの、目的があつて訳したものは無いという。全て自分の肌にあうもの、日本語移植の可能なもののみを選んで訳出されたものである。それゆえ、訳詩もまた堀口大大学自身の詩と見るべきだといふ説が強い。

「月下の一群」は、その訳詩のもつとも著名な集大成で、初版は1925年、第一書房から贅を尽くした豪華本として出版された。初版以来、度々版を重ね、紙型が摩滅して使用不能になるほどであったという。1952年、戦後最初の版が白水社から出された。内容量、選ばれた詩人と収録された詩の数に変わりはないが、最小限の加筆がなされたという。

次いで1954年、新潮文庫版が出された。これにもまた少量の加筆がなされた。文庫本になったため、堀口大大学の詩といえ、先ずこの「月下の一群」が人口にのぼることになった。

フランスの詩による男声合唱曲集「月下の一群」が作曲されたのは、1978年で、高校の合唱団でありながら、それまでも多くの新作委嘱をしてきた広島崇徳高等学校グリークラブ(男声)のためになされたもので、同合唱団によって初演された。

そのためか、現代の合唱曲としては、使用されている音域もごく通常の範囲を超えない。むしろ平易な手法がとられている。にもかかわらず、この曲集は詩と音楽が味わいの濃い合唱曲として仕上がっている。音符を音にするだけであれば困難を感じさせない箇所は一点もないが、反対に歌えば歌うほど表現意欲が刺激され、興味を尽きない点ではどんな大作にも劣らないものがある。

詩がなされた日本語に移し換えているのは詩人の選択眼の鋭さにあるが、作曲者は、このフランスならではの機知にあふれた気分を巧みに熟成した日本語に熟成している。つまり洋服がよく似合う日本人といった雰囲気の現代的な感覚の詩を巧みに捉え西洋音楽の手法から一歩も出ないまま、日本人の共感を誘う魅力あるメロディーや形式の融合した音楽を造るのに成功している。

男声合唱の機能を充分に活用し、響きの上からも、歌う意欲を強く刺激するこの合唱曲は、発表直後から広い範囲で多大の共感を獲得し、先を争うように歌われてきている。

作曲者の南弘明は、その合唱曲作家としての出発を男声合唱組曲「蛙の歌」によって行ってきた人だけに、男声合唱の機能をよくこなし、響きのよい好篇をものにしていく。

詩が、日本語によってフランス近代詩の香りを伝えていくことができ、両者に不思議な調和がかもも出されている。いって日本人の情感を良く表しているといふことができる。



外山 浩爾 音楽監督 / 常任指揮者

日本楽壇の功労者・外山国彦を父に、指揮者・外山雄三を兄にもつ音楽一門の出身。幼少より本格的な音楽教育を受け、東京藝術大学において、柴田睦陸、ウーファアー・ペニーヒ、リア・フォン・ヘッサート諸氏に師事。卒業後直ちに同大学及び附属高校で教鞭をとる。その傍ら藤原歌劇団の活動に参加し、「森の歌」「ドイツレクイエム」等のソロ活動、「カルメン」の「蝶々夫人」等、数多くのオペラ活動、「歌のメリーゴーランド」「セブンシヨニー」等、長期テレビ活動など幅広く活動。他方、合唱活動にも積極的に参加し、世界合唱連合(現 IFCM)設立代表委員、東京都合唱連盟理事長、全日本合唱連盟副理事長等を歴任。殊に明治大学グリークラブをウィーン音楽祭で銀賞受賞まで育て、個人として明治大学特別功労賞(第1号)に輝く。国内外の現代合唱作品の数多くの新作初演等を行い合唱界発展のために尽力。

教育活動では、東京藝術大学附属高校副校長をはじめ東京藝術大学、鳴門教育大学、兵庫教育大学連合大学院教授、全日本音楽教育研究会副会長等を歴任し、1992年には、文部大臣より教育功労表彰を受ける。1996年小田原音楽合唱団の音楽監督・常任指揮者に就任。

現在、聖徳大学大学院教授、全日本音楽教育研究会常任理事、東京藝術大学音楽学部同声会副会長、(社)全日本合唱連盟名誉会員、日本指揮者協会、NHK全国学校音楽コンクール審査員、板橋区混声合唱団、世田谷区合唱連盟主宰合唱団ラディアータ、葛飾区民合唱団、明治大学グリークラブ、共立女子大学合唱団等の指導にあたる。



杉山 範雄 指揮者 / ヴォイス・トレナー

小田原出身。10歳より小田原少年少女合唱隊に入隊、ルネッサンスから現代までのアカペラ・アンサンブルを学ぶ。湘南工科大学附属高等学校、東京藝術大学音楽部声楽科を経て、これまでに「フイガロの結婚」「伯爵」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・アルフォンソ」「カルメン」エスカミリーヨ、等を演じ、クープラン「聖スザンナのモテット」、バツハ「カンタータ」・「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「戴冠ミサ」、ベートーヴェン「第九」、オルフ「アフロディテの勝利」・「カルミナ・ブラーナ」等、演奏会・バスソロにて多数出演、故佐藤功太郎、小泉ひろし、小林研一郎等、各指揮のもととソリストを務める。

ユーロ・しるふれい、金沢混声合唱団、In Pace、栄混声合唱団、女声部ぶどうの会、鎌倉市民混声合唱団、北鎌倉女声合唱団等の常任指揮者を務める。サウンドドブロッジ合唱団、JVC合唱団、小田原男声合唱団、コロ・フオレスタ、桐朋学園大学附属「子供のための音楽教室」等でも、指導・ヴォイス・トレナーを務めている。読売文化センター、さがみ・コミュニティホール文化事業やさしい合唱講座、栄区メサイア塾、等講師。

声楽を多田羅迪夫、桑原妙子の各氏に師事。神奈川県合唱連盟理事、藝大小田原市人会会員。2010年小田原男声合唱団の指揮者に就任。



牛丸 紘一 指揮者

小中学校より器楽合奏部・吹奏楽部に入り音楽に親しんでいたが高校で合唱に出会い、以後今日に至るまで「合唱命」の生活を送る。高校の恩師により合唱指揮と和声の指導を受け指揮を始め。大学時代には母校金沢大学合唱団の指揮者を務め、学生生活の大半を部室で過ごした。卒業後は京都にて製薬会社に勤務の傍ら、京都で最も伝統のある京都混声合唱団に入団、副指揮者・指揮者を務めた。

この間、京都市交響楽団との協演の機会にはパッパの「マタイ受難曲」、ハイドンの「四季」「天地創造」、ベートーヴェンの「第九」、モーツァルト、ドボルザーク、ヴェルディの「フォレ、デュルフレ」の「レクイエム」、メンデルスゾーンの「エリア」、モーラーの「復活」、ラベルの「ダフニスとクロエ」等の合唱指揮を担当した。また、自社会合唱団を率い、ポリフォニクな曲をレパトリリーとして産業人合唱コンテストや音楽祭に於いて優秀な成績を収めたほか、女声合唱団等の指揮者としても活躍した。

1995年、転勤により小田原へ移住し当団に入団。2005年より団内指揮者を務めている。

第36回定期演奏会では「千の風になつて」を男声合唱に編曲、アンコールにて披露し好評を得た。星旭、中村外治、青山政雄、蔵田裕行氏に指導を受ける。

日本新薬(株)取締役等を歴任。



中根 希子 ピアノ

平塚江南高校を経て、東京藝術大学音楽部器楽科ピアノ専攻卒業。第4回かながわ学生音楽コンクール入賞、県市長会会長賞受賞。第48回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会入選。第3回長江杯国際音楽コンクール第2位。ウィーン、シカゴ等の音楽講習会マスタータス参加、修了演奏会に出演。1999年東京都庭園美術館コンサートでは、若手実力派演奏家として毎日新聞に掲載される。同年、ポーランド共和国大使館後援「日本ポーランド国交樹立80周年記念および国際シヨパン記念演奏会」に出演。2000年「ピアノノ名曲集」のCDを発売。小田原市記念事業製作の新童謡CD全3作においても収録参加。2007年小田原市民劇場、小林研一郎指揮「市民による第九演奏会」、2008年小林研一郎指揮「モーツァルトレクイエムニ短調」、2009年末廣 誠指揮「市民による第九演奏会」、2010年広上淳一指揮「市民によるオペラ・ガラ・コンサート」、2011年富沢 裕指揮「市民による第九演奏会」、2011年「レクイエム」のピアノアシスタントを務める。他方、2009年4月ウィーンフィルメンバー・シエイトイデ弦楽四重奏団と共演し好評を博した。また2010年8月「白秋・耕筈を歌い継ぐコンサート」へ大谷例子さんを囲んで〜では白井英治氏、白井 彩氏 とトリオを好演。国内外のリサイタル活動はもとより、歌曲伴奏、室内楽等の演奏会やレコーディング、FMおたわらの出演等幅広く活躍。これまでに植田克己、佐藤俊、ノエル・フロレースの各氏に師事。藝大小田原市人会会員。

平成22年度(2010年)事業・今後の主な予定 等

(1) 2010.	1. 5	(火)	平成22年度 歌いはじめ	旭丘高校音楽室
(2)	2. 11	(祝)	第33回 神奈川男声合唱フェスティバル	県立音楽堂 木のH 17団体
(3)	2. 13	(土)	平成21年度 総会	旭丘高校音楽堂
(4)	3. 6	(土)	市民による かわら・坊・コンサート ガネボ	小田原市民会館 大H
(5)	3. 7	(日)	市民による かわら・坊・コンサート	小田原市民会館 大H
(6)	4. 9	(木)	第43回 サンフランシスコ様まわり参加 日米合唱コンサート	サンフランシスコ ハーブストリター
(7)	4. 11	(火)	小田原市の姉妹都市チユラヴィスタ訪問 演奏会	サウス・ウェスタ・カレッジ コンサートH
(8)	5. 16	(日)	創立110周年記念 小田原高校同窓会	小田原高校相模湾ホール
(9)	6. 6	(日)	第59回 湘南合唱祭	綾瀬市文化会館 大H
(10)	8. 28	(土)	白根・耕作歌謡コンサート ~ 大谷剛子さんを囲んで ~	二宮ラティアン
(11)	9. 25	(土)	強化練習(合宿) 9/25(土)泊~26(日)	いこいの村あしがら
(12)	10. 3	(日)	小田原城ミュージック・ストリート	各会場
(13)	10. 17	(日)	第44回 小田原市民合唱祭	小田原市民会館 大H
(14)	11. 2	(火)	ゲネプロ01	旭丘高校音楽堂
(15)	11. 5	(金)	ゲネプロ02	小田原市民会館 大H
(16)	11. 6	(土)	第39回 定期演奏会	小田原市民会館 大H
(17)	12. 26	(日)	歌いおさめ	旭丘高校音楽堂
(18)	2011.	(土)	平成22年度 総会	旭丘高校音楽堂
(19)	3. 5	(土)	みんなで歌おう!! 市民によるオーレ・クワイム ガネボ	小田原市民会館 大H
(20)	3. 6	(日)	みんなで歌おう!! 市民によるオーレ・クワイム	小田原市民会館 大H
(21)	5. 29	(日)	第60回 湘南合唱祭	旭丘高校音楽堂
(22)	6. 11	(土)	日本男声合唱協会JAMCA 関東合同練習(荘厳ミサ)	小田原市民会館 大H
(23)	7. 16	(土)	第20回 日本男声合唱協会JAMCA 記念演奏会(ガネボ)	小田原市民会館 大H
(24)	7. 17	(日)	第20回 日本男声合唱協会JAMCA 記念演奏会	平塚市民センター H
(25)	10. 1	(土)	強化練習(合宿) 10/1(土)泊~2(日)	小田原市民会館 小H
(26)	10. 16	(日)	小田原城ミュージック・ストリート	札幌市教育文化会館 大H
(27)	10. 16	(日)	第45回 小田原市民合唱祭	札幌市教育文化会館 大H
(28)	11. 12	(土)	第40回 記念 定期演奏会	いこいの村あしがら

第40周年記念 定期演奏会 11月12日(土) 開場 14:30 開演 15:00 小田原市民会館 大ホール

予定曲目 MESE SOLENNELLE - 荘厳ミサ - よ

Kyrie Gloria Sanctus O Salutaris

Agnus Dei Domine Salvum Pie Jesu

男声合唱による 日本抒情歌曲集 よ

早春賦 叱られて 待ちぼうけ

男声合唱組曲「達治の旅情」(委嘱初演)

いつしかにひさしわが旅 南の海 西国礼所

天上大風 松子 国のはて

委嘱曲 (曲目未定) JAMCA札幌校 2011. 7. 17 にて 榊稔

デュオーパー 作曲

林 光 編曲

三好 達治 作詩

多田 武彦 作曲

信長 貴富 作曲

団員随時 募集 !! いつよに歌いましょう !!

年齢 高校生~80歳代と、幅広い年齢層です。

性別 男性で、歌好きの方であれば大丈夫です。お気軽に当協会へお声かけください。

初年 小田原・南足柄・二宮・茅ヶ崎・藤沢・鎌倉・横濱・松田・秦野・伊勢原・厚木

団員 中井・大井・山北・伊東・真鶴・大阪府吹田市・岡山県赤磐市と広範囲です。

練習日 毎週火曜日 19:00~21:30 小田原 旭丘高等学校 (小田原駅より城方駅、徒歩7分)

連絡先 斎藤恵司 TEL 0463(63)3629 桑原敏雄 TEL 0465(83)4600 青野幸夫 TEL 0463(87)2473

今までの委嘱作品

2001年 第30回記念 定期演奏会 委嘱作品
男声合唱組曲「西湘の風雅」

2006年 第35回記念 定期演奏会 委嘱作品
男声合唱組曲「互寒小景(ごんしょうがけ)」
男声合唱のための 宮崎駿アニメ映画音楽集

さんぽ
いつも何度でも
さんぽ~finale~

2008年 第37回 定期演奏会 委嘱作品

男声合唱組曲「大木惇夫の詩から・四季點綴(しきでんい)」

5つのオアハケーニャによる憧憬 編曲 委嘱 初演

2011年 第40回記念 定期演奏会 委嘱作品

委嘱曲 (曲目未定)

男声合唱組曲「達治の旅情」 初演予定 初演

大木 惇夫 作詩 多田 武彦 作曲

北原 白秋 作詩 多田 武彦 作曲

中川 季枝子 作詞 久石 譲 作曲

覚 和歌子 作詞 久石 譲 作曲

中川 季枝子 作詞 久石 譲 作曲

信長 貴富 編曲

大木 惇夫 作詩 多田 武彦 作曲

信長 貴富 編曲

信長 貴富 作曲

三好 達治 作詩 多田 武彦 作曲

信長 貴富 作曲

三好 達治 作詩 多田 武彦 作曲

信長 貴富 作曲

三好 達治 作詩 多田 武彦 作曲

小田原男声合唱団 団員

T1

加藤 重喜 (秦野市)
 河田 一男 (伊東市)
 鬼澤 正純 (藤沢市)
 斎藤 恵司 (伊勢原市)
 佐野 恵 (剛山 緑市)
 諏訪部 清 (中井町)
 田口 翔悟 (秦野市)
 西山 廣木代 (二宮町)
 福嶋 修 (小田原市)
 日置 達男 (小田原市)
 堀内 哲夫 (小田原市)
 水城 高嶺 (秦野市)
 望月 信夫 (小田原市)

T2

青野 幸夫 (秦野市)
 伊藤 甲一 (松田町)
 牛丸 紘一 (小田原市)
 佐藤 精孝 (二宮町)
 杉原 由一 (南足柄市)
 杉本 健二 (南足柄市)
 福井 隆 (二宮町)
 宝子 山尚生 (小田原市)
 李中 勉 (秦野市)
 山田 允彦 (茅ヶ崎市)
 山本 洋之 (小田原市)
 吉本 隆一 (小田原市)

B1

青野 正純 (小田原市)
 熱田 隆純 (南足柄市)
 伊東 清邦 (秦野市)
 岩越 万里 (小田原市)
 江川 卓男 (鎌倉市)
 江藤 凱夫 (厚木市)
 大塚 常昭 (小田原市)
 奥津 光隆 (真鶴町)
 小澤 一 (小田原市)
 菊池 義彦 (小田原市)
 下村 興毅 (小田原市)
 西山 隆行 (秦野市)
 見尾 田博樹 (小田原市)
 莚井 武 (大磯町)

B2

赤川 軍一 (伊勢原市)
 一色 義信 (秦野市)
 井上 忠彦 (小田原市)
 木村 昌彦 (茅ヶ崎市)
 桑原 敏雄 (大井町)
 古林 源次郎 (二宮町)
 近藤 陽一郎 (二宮町)
 坂口 宗夫 (小田原市)
 鈴木 壽久 (南足柄市)
 曾我 重康 (小田原市)
 田島 達也 (南足柄市)
 豊田 増穂 (小田原市)
 中嶋 亮仁 (小田原市)
 原 誠 (南足柄市)
 星野 正博 (茅ヶ崎市)

音楽監督

常任指揮者

外山 浩爾

指揮者

ヴォイス・トレーナー

杉山 範雄

ピアニスト

中根 希子

運営 スタッフ

団 長

一色 義信 隆

副 団 長

福井 牛丸 紘一

団内指揮者

桑原 敏雄 隆

事務局長

福井 佐藤 精孝

技術部長

杉本 健二

財政部長

斎藤 惠司

渉外部長

加藤 重喜

団員部長

青野 幸夫

情報部長

事業部長

財政監査

田島 達也

近藤 陽一郎

演奏会 スタッフ

委員長

青野 幸夫

事務局

桑原 敏雄

会計

佐藤 精孝

T

伊藤 甲一

B

岩越 万里

出演

福井 隆

報 外

桑原 敏雄

渉 招

杉本 健二

待 状

豊田 増穂

写 真

加藤 重喜

台 舞

山崎 幸與

打上 げ

斎藤 惠司

チアノ

青野 幸夫

ピアノ

日置 達男

ロビー

鈴木 幸三

事務局長

木村 敏明

アサウス

南 エコー

石崎 雅美

市レベア・ジョースト

事務局主事

井上 忠彦